

そ う ぜ ん じ 便 り

19世 俊諦和尚筆

第 1 6 2 号

令和 7 年秋彼岸号

臨 濟 宗 宗 禅 寺
建長寺派

住 職 高井正俊
徒 弟 高井和正

羽村市川崎2-8-20
TEL 042-554-1276
FAX 042-578-3525

暑さ寒さも彼岸まで。境内では夜の虫の声が秋の訪れを知らせています。今年も川崎のお薬師様のお祭りを開催致します。子供達の日本舞踊、地元川崎のお囃子・太鼓など奉納舞台もご期待ください。地域の皆様による手作りのお祭りです。お薬師様に手を合わせて、秋のひと時をお楽しみ下さい。

十月四日(土) 十五時～十九時終了予定『雨天決行』

第四十回 川崎一本木堂薬師如来

薬師如来大祭

◆十四時 じゃんがん町内ふれ廻り 十四時四十分 御詠歌奉詠

◆十五時 薬師堂にて薬師如来祈祷法要・百万遍数珠回し

〈奉納舞台〉 ※奉納演目と時間はおおまかな目安です

◆十五時半 かつぱれ踊り 川崎祭太鼓保存会

◆十六時 山藤流・子供たちによる日本舞踊 川崎祭囃子保存会

◆十七時 お子さんたちのバルーン遊び 河童寺和尚のサックス演奏

◆十八時 エルムンドによるフラメンコ

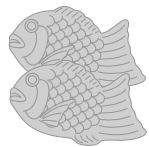
◆十八時半 伊庭末雄さんの民謡とみんなで盆踊り

※彼岸中(九月二十日(土)～二十六日(金))毎朝六時～七時、彼岸早朝坐禅会行います。

ご予約ご不要です。

【お祭りの手作り屋台】

焼きそば	200 円
焼鳥	100 円
名物タイ焼き	100 円
けんちん汁	無料
ジュース	無料
ポップコーン	無料



【宗禅寺薬師堂(川崎一本木堂)】

宗禅寺境内にある薬師堂は天正年間(室町時代)の再建との伝承があり、江戸時代に開創したお寺の歴史よりも古いものになります。多摩川の洪水により多くの被害が出た折、洪水にて流れ着いた一本の大木から建立されたことから、川崎の一本木堂と呼ばれ、村持ちのお堂でした。

現在の薬師如来像は地元川崎の檀信徒であり、彫刻家であった島田政助氏が一念発起しご奉仕にて彫って下さった仏像です。薬師如来は皆様の健康を司る仏様です。足をお運びいただき手を合わせ、ご家族のご健康をお持ち帰り下さい。

七月十五日 孟蘭盆 施餓鬼大法要

御報告

七月十五日に施餓鬼大法要を営みました。毎年お盆の供養として営んでおりますが、本年は宗教学者の正木晃先生をお迎えして、先生から本堂にて「お盆のおはなし」をいただきました。学者さんのお話は難解になってしまふ場合もありますが、身近な話題も入った非常に聴きやすいお話であったと感じております。

また、お盆前の七月五日には、護持会と薬師講役員の皆様による恒例のお盆前の墓地清掃が行われました。お墓にあがっている枯れ花を回収し、皆様が気持ちよくお参りできるようにして下さっています。

お施餓鬼は毎年七月十五日の午後開催しております。新盆をお迎えする皆様だけの法要ではありません。お時間合えば、毎年お参りいただければ有り難いです。



施餓鬼棚

八月十七日 戦後八十年を想う集い

今年は戦後八十年の節目を迎えました。が、八月十七日に「戦後八十年を想う集い」を開催致しました。

この集いを開催するにあたってご尽力を下さったのは、羽村市内在住の荻原稔さんという方で、亡きお父様がシベリアでの抑留をご経験されており、ご本人様は現在も外国での遺骨収集活動に携わっております。

地元川崎の中野喜一さんが中心となつて編纂された戦没名簿『もののふ』を事前にお渡ししたところ、宗禅寺の境内墓地に眠る支那事変と太平洋戦争の戦死者のお墓を全て調べて下さり、当日一基一基、参加者と共に丁寧に全ての墓の墓参を致しました。

また、客殿では荻原さんご自身の遺骨収集のお話と、お母様の被爆体験、そして叔父様の戦争体験という三人の方の戦争にまつわるお話しに皆で耳を傾



もののふに掲載されている宗禅寺境内墓地に眠る戦争物故者(一部)のご尊顔を一枚のお写真に。

けました。

当日の会場には、「JYMA・日本青年遺骨収集団」の大学生の方もお越し下さり、薄れていくであろう記憶の継承が若い世代にも行われていることが確認できました。

亡き人の供養というのが、お寺の大きな役割でもあります。が、こうして意識的に向き合うことが、供養にも繋がっております。大変有難い機会をいただきました。「戦後を想う集い」はまた来年開催を予定しております。

次の世代へ想いを継承する貴重な機会となります。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

禅の旅 久しぶりに開催致します

コロナ禍もあり休止していましたが禅の旅を今秋開催する運びとなりました。お彼岸までには詳細を決定致します。

ご参加をご希望の方は、お彼岸にお寺で申込書をお受け取りいただき、ご記入してご提出下さい。尚、募集は定員に達し次第締め切りと致します。

記

【日程】 令和七年

十一月十六日(日)～十七日(月)

一泊二日

【参加費】お一人様 三万円 にて

【訪問予定寺院】静岡県方面

・由比 最明寺 臨済宗妙心寺派

開山は建長寺十世 一山一寧禪師

・掛川 貞永寺 臨済宗妙心寺派

開創1232年 遠江安国寺

・牧之原 平田寺 臨済宗妙心寺派

開創1283年 田沼意次菩提寺

・丸子 柴屋寺 臨済宗妙心寺派

連歌師宗長の寺 庭園は国の名勝

※ご参加ご希望の方は、案内詳細をお寺でお渡し致します。



金剛山貞永寺(じょうえいじ) 開創時は真言宗。足利尊氏が全国に安国寺を設置した際、遠江安国寺とし、臨済宗に改宗し再興隆された。



天柱山柴屋寺(さいおくじ) 別名吐月峰とも。御本尊は十一面観音。1504年に連歌師宗長が結んだ草庵に始まったお寺。

らいおぎハウスの活動について

子供たちが夏休みに入るとリアルでらこやも忙しくなります。夏休みには毎月の第二土曜日開催ではなく平日三日間連続で夏休みスペシャルを開催するからです。今夏も八月四日(月)から六日(水)の三日間、開催し、延べ二三〇人の子どもたちが参加をしてくれました。

大変多くの子どもたちが来てくれる一方で、日頃の活動を支えてくれるボランティアさんは当然ながら平日は仕事を抱えている方も多く、夏休みはボランティアさんが少なくなる傾向があります。しかし最近に参加していた子供たちが年齢を重ね、高校生や大学生になり、お手伝いに来てくれるようになりました。

夏休みスペシャルは、スペシャルの名前通り、企画が盛りだくさんです。境内でのスイカ割り、流しそうめん、水風船遊び、お寺の本堂での怪談話、客殿書院でのペットボトルを使つての工作、書道、などなど。ホントに沢



スイカ割り

山の企画を用意するのですがそれぞれに子供たちは参加を強制されることはなく、勉強ももちろんですが、子どもたちには好きなことをして過ごしてもらっています。肩ひじ張らずに、素直な自分を出してもらいたいと考えています。

今年度から羽村市の後援も正式にいただくようになりましたが、羽村市こども家庭支援センターから子どもの受け入れも依頼されるようになりました。他県からの転入してきたお子さんと、小学校の低学年から不登校だったようで、会員の元教師の方が中心に毎日一緒に勉強を見守っています。不登校の子供達を主な対象とした平日のリアルてらこや（毎月第四水曜日十四時～十九時開催）も開催しています。様々な事情を抱えてしまっている子どもたちにも居場所を作ってあげないといけません。弊団体のリアルてらこやのような場所が羽村市内にもっと増えてくれればと願っています。

宗禅寺様を会場とした
“リアルてらこや”は
子供達を中心とした全
ての人のための居場



昼食としてお寺の竹で制作した流しそうめんを提供しました

所作りです。子どもも大人も、みんなが集まってこれからも毎月二回、活動が続けていきます。



大学生のお姉さんとペットボトルアクアリウムを作りました



最終日。本堂で3日間お寺を使わせていただいた御礼に御本尊様にみんなで読経をしました

文庫長だより

島田 秀男

羽村が生んだ文豪・中里介山は、今年で生誕一四〇年の節目の年にあたります。

時代小説や歴史小説から、私たちはその時代に生きた人々の暮らしや文化を学び、現代に生かせる知恵を得ることができま。この分野で活躍した作家は、池波正太郎や司馬遼太郎、少しさかのぼれば、吉川英治、大佛次郎などをあげることができま。その源流の一つは、中里介山の『大菩薩峠』とされています。

甲州裏街道の難所、大菩薩峠に歳は三十前後、細面で色は白く、やせた体格の武士がやってきて、そこにいた老巡礼をいきなり斬り殺してしまう場面から小説が始まります。

「音無しの構え」という魔剣の使い手であり、二ヒルな剣士・机龍之介。強烈なキャラクターの机龍之介は、繰り返し映画や演劇などになりました。

中里介山は明治一八年（一八八五）四月四日、羽村で唯一残る水田地帯の車堀と呼ばれる用水にかかる水車の中で生まれたといわれています。本名は、弥之助。

中里家は、四、五町歩の田畑を所有する中農層の百姓でしたが、介山が生まれたころは経済不況の時代で、家業は不振に陥り、介山は小学校を卒業後、電話交換手や母校の代用教員として働きました。明治三十九年（一九〇六）、介山は都新聞社に入社して新聞記者となりました。

『大菩薩峠』は、介山二八歳、大正二年（一九一三）九月一二日に都新聞紙上に連載を始めました。御岳神社の奉納試合で机龍之介は甲源一刀流師範の宇津木文之丞を打ち殺し、その妻・お浜と江戸へ行く。文之丞の弟・兵馬と、老巡礼の孫・お松が仇の龍之介を追うところから物語が展開していきます。しかし、生死を懸けた仇討ち小説は、途中から龍之介の登場する場面が大幅に縮小され、人物たちの因縁や業を描く物語へと変化していきます。

『大菩薩峠』は、第一巻「甲源一刀流の巻」から、昭和一六年（一九四一）、五六歳で執筆した第四一巻「椰子林の巻」まで、二九年間の長きにわたり書き継がれ、文字にして五〇〇万字を超えろといわれています。

中里介山が『大菩薩峠』を執筆する契機となつたのは、明治四三年（一九一〇）の大逆事件でした。介山とも交友関係にあった幸徳秋水らの社会主義者が明治天皇の暗殺計画を企てたとして逮捕・処刑された大逆事件は、介山にとってショックは隠しきれないものでした。

日露戦争後の産業発達に伴う社会問題の続出や大逆事件の発覚とそれにつづく権力の弾圧は、石川啄木が『時代閉塞の現状』で論じたように、明治末年の青年たちに行きどころのない鬱屈感を強めました。介山がこのような状況を打開しようとした結果、『大菩薩峠』という小説が編み出されたのです。

明治四四年（一九一一）、介山は咯血し、肺結核初期と診断され、熱海で静養しました。そのとき介山は、熱海の海岸の砂浜に文字を書き、そしてその文字は波によって跡形もなく消え去る様を見て、「あゝ、人の書ける文字は凡て斯くの如きものなるべしと思ひぬ」と吐露します。『評伝中里介山』を執筆した松本健一さんは、介山は「文学と政治の関係、文学における自己表現のありかた、文学の

永遠性といった一連の問いに答えをだそうとしていた」。そして、「大逆事件前後を境にして、それまで『知』の世界に住んでいた中里介山が『非知』の世界、すなわち大衆の世界に住みはじめたということ、心は大衆の世界に住んで小説を書くこうとしていたことの象徴ではないか」と述べています。

『大菩薩峠』では、机龍之介が不条理な殺人を重ねることも、第六巻「間の山の巻」で修羅の世界に生きる人間の哀しい生きざまを語ることも可能としたのです。その結果、『大菩薩峠』は昭和の初め民衆の圧倒的支持を集めたのです。

羽村市郷土博物館では中里介山生誕一四〇年を記念して、十月一日から十二月七日まで特別展が開催されます。ぜひご覧ください。

《参考文献》

会報羽村郷土研究

第四六、四七、四八号

松本健一『中里介山時代とその思想』

寺門清風 正俊記

●暑すぎた夏が、終わりました。秋風を味わいながら、お過ごし下さい。お寺の催しにお出かけ下さい。特に土曜講座に。

へ 六 月 へ

- 鎌倉てらこやの全国学生リーダーズ合宿、二十人。朝のおつとめ・坐禅・粥作法。ていねいにしました。 6/15
- 平曲(二部平家)の会、十七人。隠察で行いました。充実感あります。 6/15
- ミスミ建設「学び舎」つなぎコンクリート床打ち終わり。ガラクタを車一台分。片付けてくれました。 6/16
- リアルてらこや。NPOに向けて、設立総会が行われました。客殿。 6/17
- 寺子屋委員会定例勉強会。狭山・山口貯水池など勉強。多摩川の役割 6/18
- 鎌倉禅研究会。西田幾多郎、明治の禅を学びました。美濃部先生、蓮沼先生。寺は学び舎で囲碁の会盛大！ 6/19
- 鎌倉、松ヶ岡文庫評議委員会。終って大本山円覚寺の居士林と新築中の僧堂の禅堂をこっそり検分。重厚。 6/20
- 写経の会十一人客殿。落ち着いて、なお、ゆとりあり。坐禅会十四人。 6/21
- 『北条時頼』山本隆志、読む。補聴器を新調快適です。会活に入れる。 6/25

- 平日てらこや、裏の家で三十人。私は除草作業。草なかなか手強い。 6/25
- 虎ノ門病院定期検診。日比谷で「国宝」見る。なかなかのもの一見要 6/26
- 禅文化研究所の評議委員会で京都へ。皆さんの熱意をもった意見、『禅文化』誌の存在。とても大事。 6/27
- 水族館劇場の方々、第二駐車場、東墓地の除草。スツカリきれいになる。夕刻、寺総代会。お盆などについて 6/29
- 夜部屋を久し振りに片付け。 6/30
- 毎月、いろいろあります。寺を使つてうどんやヨガやサウンドバス。実にありがたいです。歳のせいかわれがなかなかとれなくなりました。マッサージ機休息が増えていきます。
- へ 七 月 へ
- お盆の月です。青梅の宗徳寺さんの「お施餓鬼」今日から十六日まで、各地の寺の施餓鬼法要に出かけます。寺では御詠歌と写経。 7/1
- 高校の親友津田さん。寺院建築モデル取りに。建長寺、南禅寺、宗禅寺の作品寄贈して下さる。感謝。 7/2
- 除草作業、順心眼科定期検査。 7/3
- お盆の掃除、女性陣十四人。サッシなど室内がキレイになる。感謝。 7/4
- 護持会お盆ソージ二十二人。お墓キレイに！ 坐禅会七人。 7/5

- 定例朝粥坐禅会。十二人で。 7/6
- 作務は、夕方に。昼は無理。
- 写経の会九人。元総代長新井光さん死去。お世話になりました。 7/11
- 鈴木大拙忌で松ヶ岡文庫へ。没後六十年。寺では平曲。 7/12
- 今朝からお盆坐禅会。十六日まで。
- 今日は禅林寺施餓鬼、林泉寺施餓鬼(砂川)若手和尚多し。 7/13
- 十一時禅福寺施餓鬼。二時一峰院施餓鬼。檀家の人たくさん。 7/14
- 十時総代、薬師講の方々二十人。法要の支度に来山。大雨。テントなど外の支度やめ、全て内部で。幕のみ張る。十一時福生長徳寺セガキ、雨やむ。十二時半受付開始。雨止んで、落ち着いて対応。一時御詠歌・正木先生のお話。二時法要。二百人。来山和尚十五人。そうめん接待、片付け終って、謝労二十五人。皆さんありがとうございました。雨止んでヤレヤレ。 7/15
- 大西さん鶴見禅の件で来山。三時新町東禅寺さんの施餓鬼。打ち上げ。 7/16
- 寺ヨガ十時十五人。新井光さん通夜。五〇〇人の来客。本堂内外人で一杯。十八日葬儀。 7/17・18
- 鎌倉浄智寺で伊藤玄二郎さん「天正少年使節の話」。夜、土曜坐禅会 7/19
- 鈴木佐さん来山。禅の旅決定。 7/20

- 定例写経会一時く三時。落ち着きたい会になりました。来山歓迎 7/21
- 定例うどん教室八人。月二回 7/22
- 平日リアルてらこや。梅林さんみんなの家・学び舎、つなぎ廊下完成。夕方から、寺子屋委員会。 7/23
- 七月土曜講座。イス坐禅、菊地さんのお話絵本。菅生学園布村校長先生。二十五人。 7/26
- 法事後、東駐車場除草。水族館劇場の方々も。ヘトヘトでシャワー 7/27
- 銀座丸善で副島さん陶器展。本屋さんにも。虎ノ門で定期検査。 7/29
- 日本橋高島屋で小泉淳作展開会に、皆で旧交を。美川さんの奥さまも。皆、歳をとってぎました。 7/30
- 鎌倉禅研究会。高橋慎一郎・下村周太郎先生。熱気あふれる。 7/31
- 激動の七月が終りました。歳を確実にとっています。
- へ八月へ
- 定例写経九人。夏力ゼのようであいさつのみ。食事とらずネル。 8/1
- 朝粥坐禅会。鎌倉からも合せて三十人。なんとか頑張る。あとは休息。 8/3
- 保阪正康『なぜ日本人は間違えたのか』ていねいに読み出す。 8/5
- リアルてらこや。夏休みスペシャル。四・五・六の昼食まで。合計三百人。子供

- 定例写経会一時く三時。落ち着きたい会になりました。来山歓迎 8/4・5・6
- 寺子屋委員会「大野洋一さんの話をうかがう。四時く六時半。 8/27
- 鎌倉てらこやの子供達の坐禅指導などで建長寺へ。了而夢科へ一泊旅行。 8/28
- 宗禅寺土曜講座。イス坐禅、菊地洋子さんの絵本語り。小河内村のことも河井与十先生に話してもらおう。 8/30
- 夕方四時から薬師如来大祭の全体打ち合わせ会。五時から暑気払い 8/31
- 暑い夏でしたが、寺は葬儀・法要・各種行事と活発に動いています。各グループの方々と十二月二十日(土)に納会を予定しています。ご出席の程！
- 鎌倉・食の会で建長寺へ。山田雅子さん、芳澤元先生。 8/17・18
- 十時から一時間、本堂でヨガ教室。一時からは客殿で写経の会。裏の学び舎では九時から四時まで囲碁の会。寺は暑いのに元気そのもの。 8/20
- 会館前「太子堂」草ぼうぼう。思い切つて除草に。余りの暑さに退散。 8/21
- 一時から禅センターで「新聞サロン」。今日で四十二回目とのこと。 8/22
- 半藤一利「日本のいちばん長い日」読了。読んでよかった。 8/23
- 早川書房の三人『仏教と殺人』出版にあ

宗禅寺観音募金

令和7年6月17日～令和7年8月29日まで

皆様からの募金、お賽銭をこのように使っています。ご協力ありがとうございます。

繰越 28,000円

収入 55,000円お賽銭

支出 50,000円

内訳	10,000円	羽村市社会福祉協議会 様
	10,000円	西東京臨済会災害支援部 様
	10,000円	らいむぎハウス(リアルてらこや) 様
	10,000円	あしなが東日本地震災児支援 様
	10,000円	あきしまウクライナ友好協会 様

繰越 33,000円

宗 禅 寺 毎 月 の 活 動

—お寺で本当の自分に気づく—

- 朝 粥 坐 禅 会…… 毎月第一日曜日 朝6時～8時 坐禅後に禅の食事作法に則ってお粥をいただきます。
鐘を撞きながら般若心経読経。ご予約ご不要です。 10/5 11/2 12/7
- 土 曜 坐 禅 会…… 子供:18時～19時 大人19時半～20時半 足にご不安の方には、イス坐禅も
ございます。予約不要です。※子供坐禅は要予約にてお願い致します。
- 彼岸早朝坐禅会…… 9月20日(土)～26日(金)毎朝6時～7時。暁鐘を撞いて読経。ご予約ご不要です。
- 土 曜 講 座…… 毎月1回開催の公開講座。毎回13時～16時。地域文化を学びます。
- 写 経 会…… 毎月1の日(1日、11日、21日)13時～15時般若心経写経。支度片付けは全員で。
- 鎌倉流御詠歌…… 毎月第1第3火曜日13時半～15時ホトケのココロを歌に乗せて 指導:高井淑子
- 手打ちうどん教室…… 現在2クラス開講中。各クラス月1回。講師:島田辰夫先生
- い き い き ヨ ガ…… 毎月第1第3木曜日10時～11時 予約不要 参加費500円 要ヨガマット、水分補給飲料
講師:園部多恵子さん <https://www.instagram.com/tae.yoga/>
- リアルてらこや…… 毎月第2土曜日午前中&毎月第4水曜日午後2時～7時半(小学生は4時半まで)
土曜日はお寺客殿、平日は裏の第二駐車場隣の「みんなの家」にて開催。
主催:らいむぎハウス 問い合わせ090-5542-6159(水野義裕)
子どもたちの学習支援、居場所づくり、こども食堂。ボランティア募集中。
- 一 部 平 家…… 平家琵琶を聴く会。毎月第2土曜・日曜13時～16時。 参会費500円
平家琵琶の伴奏で平家物語を語ります。問い合わせ:鈴木孝庸090-1267-0864
- サ ウ ン ド バ ス…… クリスタルボウル、チベタンボウルの音色の中で静かに横たわるリラクゼーション
です。原真弓090-4392-7133 9/19 10/3 10/17
いずれも午前10時～11時15分 10月まで参加費無料
- 木 彫 教 室…… 毎月第1第3土曜日 13時～16時 講師:新井達矢先生 見学可能 仏像や能面
を彫ってみませんか? 月謝5,000円(道具、材料費は要別途)
新井達矢先生ブログ <https://ameblo.jp/tapazya-1982/>
- 宗 禅 寺 俳 句 会…… 毎月1回(主に第3月曜日13時半～15時半頃)
問い合わせ:中野つたえ 042-554-2444
- 尺 八 吹 禅 の 会…… 毎月第1第3月曜日 19時半～21時頃 坐禅15分、練習60分
問い合わせ:坂井陵童 042-554-3273
- 宗禅寺将棋クラブ…… 毎月第3日曜日13時半～16時半 老若男女問わずご参加下さい。お子様の御参加
も大歓迎です。 問い合わせ:新井政昭 090-3089-3011
- 新 聞 サ ロ ン…… 毎月第4土曜日13時～14時 新聞を使って自分の世界を楽しく広げましょう。
お子様のご参加大歓迎。要予約 鹿野川喜代美 042-554-7343 090-6549-0751
- ち う ち く
▲竹 々 会…… 毎月第2水曜日10時～16時 みんなで編み物をする集まりです
問い合わせ:根岸加代子 042-555-6212
- ▲囲 碁 サ ロ ン…… 毎週木曜日午前9時～午後4時 出入り自由
- ▲介 護 予 防 体 操…… 健康体操をみんなで一緒に行います。毎週金曜日14時～16時。

寺子屋委員会・薬師講中・護持会・女性サンガの会 ——活動中です——

○禅センター・みんなの家 ご使用下さい □各会の会場:●宗禅寺 ○禅センター ▲みんなの家

土曜講座のお知らせ

“創ろう地域の文化を人から歴史から”
のスローガンのもと、開催している月一回
の文化講座です。予約不要、お茶代三〇〇円。
学生さん無料。どなたでもご参加できます。

◆第百六回 九月二十七日(土)十三時～十六時

・イス坐禅 住職 高井 正俊

・講談「玉川上水物語」

講談師 菊地 玉雲 師

・「鎌倉海藻ボーク」 矢野 ふきこ さん

鎌倉の海と豚さんをつなぐ事業展開の話です。
是非お出かけ下さい。

◆第百七回 十月二十五日(土)十三時～十六時

・イス坐禅 住職 高井 正俊

・講談「耳なし芳一」

講談師 菊地 玉雲 師

・「羽村の映画館 錦亀館」のこと

羽村郷土博物館 前田 夏美 先生

◆第百八回 十一月十五日(土)十三時～十六時

・イス坐禅 住職 高井 正俊

・講談「雪おんな」

講談師 菊地 玉雲 師

・「五日市憲法とその周辺」

く思想を伝えた男たち」

タクロンチーバ普及協会

◆第百九回 十二月二十日(土)十三時～十五時

宗禅寺各グループで納会をします。

企画募集中。参加予定して下さい。

鎌倉禅研究会のお知らせ

鎌倉建長寺で行っている禅の公開講座です。
ご予約ご不要。入口で入山料五〇〇円、会
場で資料代五〇〇円を納めて下さい。会場
でお会いしましょう。

◆第百十三回 九月十八日(木) 於 建長寺

・「蘭溪道隆禅師の語録から」

法政大学講師・建長寺研究員 彭 丹 先生

・「蘭溪和尚の語録を読む」

禅文化研究所講師 衣川 賢次 先生

◆第百十四回 十月十六日(木) 於 建長寺

・「蘭溪道隆三〇〇回忌を巡って」

京都芸術大学非常勤講師・建長寺史調査員

橋本 素子 先生

・「醬作次第と鎌倉(ひしおの事)」

明星大学准教授 芳澤 元 先生

◆第百十五回 十一月六日(木) 於 建長寺

・「『建長寺常住日記』の世界」

広福寺副住職 白川 宗源 師

・「中世後期の遠讀(おんき)と禅宗」

戸田市郷土博物館学芸員 山口 啄実 先生

◆第百十六回 十二月十一日(木) 於 建長寺

・「『大鑑清規』レポート」

禅居院住職・建長寺派教学部長

山名田 紹山 師

・「大覚禅師と足利市の諸々」

足利大学講師・福蔵寺住職 采澤 良晃 師

※時間は午後一時開始。午後四時半終了予定です。

鎌倉・食を学ぶ会 in 建長寺

食のことを色々。どなたでもご参加できま
す。お出かけ下さい。建長寺入山料五〇〇円。
会場で参加費十月は千円、十二月は二千円と
なります。

◆第十九回 十月十七日(金)十三時～十六時半

・修行道場(僧堂)を参拝します。

十三時に山門にご集合下さい。

・「建長汁(けんちんじる)と禅の食作法」

元建長寺派宗務総長 高井 正俊

◆第二十回 十二月十六日(火)十三時～十六時半

・「料理が苦痛だ」の現場より」

料理応援家 本多 理恵子 さん

・「鎌倉伝統食講座」御節供料理解説と

2026年版御屠蘇ワークシヨップ」

伝統食研究家 山田 雅子 先生

【平家物語を平家琵琶で聴く会】

毎月第二土曜日、日曜日に宗禅寺客殿で開催

・十月十一日、十二日 ・十一月八日、九日

・十二月十三日

午後一時から四時頃終了予定 参加費五〇〇円

演者 前田流平家琵琶

鈴木孝庸(たかつね) 荒井今日子

問い合わせ:鈴木孝庸090-1267-0864